

国語科学習指導案

八尾市立八尾小学校

指導者 宮島 加奈

1. 日 時 令和6年6月20日(木) 第5校時(13:45～14:30)
2. 場 所 第4学年2組 教室
3. 学年・組 第4学年2組(児童数35名)
4. 単 元 名 筆者の伝えたいことを正確にとらえるために、伝え方の工夫を知ろう
「アップとルーズで伝える」(光村図書)

5. 単元目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。 【(2) ア】 ・接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。 【(1) カ】	・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。 【C読むこと(1) ア】 ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。 【B書くこと(1) ウ】	・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。

6. 本単元で取り組む言語活動

伝え方の特徴を捉え、「すがたをかえる大豆」を双括型に書き換える。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 【(2) ア】 ・接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 【(1) カ】	・段落相互の関係に着目しながら考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 【C読むこと(1) ア】 ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫している。 【B書くこと(1) ウ】	・筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係などを捉えることに積極的に取り組み、自分の考えを書こうとしている。

8. 指導にあたって

(1) 児童観

本学級の児童は、「アップとルーズで伝える」を学習する前に、既習の説明文「くちばし」「たんぼのちえ」「こまを楽しむ」「すがたをかえる大豆」の構成を復習している。単元のはじめに説明文の構成について確認したところ、構成は「はじめ」「中」「おわり」に分かれている、「はじめ」には①大きな問い ②話題提示 が書かれている、「おわり」には①大きな問いに対する答え ②終わりのまとめ ③伝えたいこと、「このように」がある

と「おわり」にむけてまとめられている、ということを知っている児童が多くいた。しかし、「アップとルーズで伝える」に出てくる「このように」は中まよりのつなぎ言葉であるが、「おわり」の始まりの言葉だと思っている児童がほとんどだった。だから、「このように」がどの段落をさしているのかをくわしく読み、段落の構成を確認した。

また本学級の児童はいろいろなものを比べて考えることをテーマにたくさんの場面で比べて考える機会を、国語のみならず、教科横断的にとってきた。本単元「アップとルーズで伝える」では、それぞれの違いを比べるだけにとどまらず、対比することの良さについて気づくことを目標としている。

さらに、本単元で双括型を学習するにあたり、朝の会の一分間スピーチでは、自分の主張→理由（2つ以上）→自分の主張のまとめを意識しながらスピーチをするなど、日常生活でも双括型を意識できるようにしている。本単元の最後には「すがたをかえる大豆」を双括型で書くことを予定しているので、これからも自分の身近なところで意識できるようにしていきたい。

（2）教材観

本教材は、双括型の説明的文章である。説明文全体を通して、「アップとルーズを選んだり組み合わせたりしながら伝え方を工夫することで、より分かりやすく伝えることができる」という筆者の考えを伝えるために、テレビや新聞といった児童の生活に身近である具体的な例を用いながら述べられている。私たちが最もよく目にしているメディアであるテレビの映像技法を中心に述べており、分かりやすい説明とはどのようなものであるかを学ぶのに適した教材である。文章構成は、「はじめ」1～3段落、「中」4～7段落、「終わり」8段落となっている。4、5段落では、テレビでの撮り方として「アップの撮り方」と「ルーズの撮り方」を、プラスの側面とマイナスの側面の両方を対比しながら説明している。また、7段落では、テレビだけでなく新聞という違うメディアでの事例を取り上げ、それまでの主張をさらに一般化することで、より読者を納得させやすくする工夫がなされている。

そのため、文章全体として、文ごとや段落ごとの関係性が読み取りやすく、写真と文章を対応させて読みながら各段落の要点をまとめることを通して、対比的な段落関係をつかみ、それを含んだ文章全体の構成を捉えることをねらいとしている。本単元に関しては、第3学年の「ありの行列」や「こまを楽しむ」と違い、「初め」部分に筆者の主張がない。そこに注目させて2回主張を繰り返す効果を考えるようにしたい。第3学年の「すがたをかえる大豆」で、中心となる語や文を捉え段落相互の関係を考えながら読んだり、写真と文章を対応させて読んだりする学習をしてきている。本単元では、これらの上に立って、段落相互の関係を考えるとともに、文章全体における段落の役割について考えることができるようにする。このことは、第5学年「天気を予想する」において、グラフや表、図、写真を使う意図を捉えて、筆者の論の進め方に対する自分の考えを書く学習へと発展していく。

（3）指導観

この教材で初めて双括型を学ぶ。双括型の文章構成や事例が対比されているよさを理解し、自分の考えをまとめ伝える時に活用できるようにさせたい。筆者が、初めと終わりに主張を書くことでどのような効果があるのか、また、アップとルーズを比べたり、デメリットが書かれたりしているところ考えさせ理解につなげていく。児童観でも述べたように「アップとルーズで伝える」の前の単元「一つの花」で、今の自分たちの生活と戦争の頃の生活を比べる、言葉を比べる、場面を比べる学習を取り入れ、比べることのよさに気づく活動を取り入れてこの単元に臨んだ。

第一次では、これまで学習した説明文の構成を確認し、書きぶりの違いに気づかせるための活動を取り入れた。その後、「アップとルーズで伝える」を読んで、今までの説明文と文章構成を比べて、似ているところや違うところを探し、文章構成や内容のわからないことを中心に初発の感想を書いた。初め・中・終わりの段落分けも試み

るが、初めて出会った双括型の文章に気づく児童は少数だと考えられる。そこで、「思いやりのデザイン」を読んで、文章構成を学習する。「思いやりのデザイン」では、「アップとルーズで伝える」と同じく、筆者の主張が初めと終わりにあり、段落同士が対比的に書かれているため、それらを意識させながら文章を読み取らせる。

第二次では、改めて初め・中・終わりの段落を確認し、筆者の主張を捉えさせる。筆者の主張を理解すると共に、初めと終わりに書かれているのはどうしてなのか、アップとルーズのメリットだけでなくデメリットが書かれていること、七段落の内容は必要なのかなどの問いが生まれると考えられる。それらを考えるため学習をすすめていくが、段落相互の関係や文頭の語（接続語）にも着目させて読み取らせていく。最後に筆者の主張が「アップとルーズで伝える」の題名に表されていることを理解させたい。

言語活動では、「すがたをかえる大豆」を双括型の文章に書き替える学習に挑戦する。既存の文章と双括型になった文章を比べ、伝え方の違いで受け手の感じ方が変わることについて、今後の生活に活かせるようにする。

9. 単元の指導と評価の計画（全11時間 本時：第8限目） ◎記録に残す評価 ○指導に生かす評価

次	時	主な学習活動	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	4	・既習の説明文の構成を確認する。 1年「くちばし」、2年「たんぽぽのちえ」 3年「すがたをかえる大豆」「こまを楽しむ」 ・「アップとルーズで伝える」を読んで、今までの教材の構成と違うところを探し、段落分けをして初発の感想を書く。 ・初めの感想で出た問いや気づいたことを交流し、今後の見通しを立てる。 ・「思いやりのデザイン」の構成で、対比・双括型を学ぶ。	○		○	・既習の説明文の構成と比べることができる。（記述）【知】
				○	○	・「初め」「中」「終わり」に分けようとしている。（ロイロ）【態】 ・初発の感想を書いている。（記述）【思・判・表】
					○	・単元の目標を的確に捉えながら、作品に対する自分の考えを表すことができている。（記述・発言）【態】
			○		○	・双括型の構成であることに気付くことができる。（記述・発言）【知】

2	5	・改めて「アップとルーズで伝える」の文章を読み、再度段落分けをし、書きぶりについての感想を書く。		○	○	・「初め」「中」「終わり」に分けることができる。(ロイロ)【態】 ・「思いやりのデザイン」との類似点や違う点に気付くことができる。 (記述・発言)【態】
		・文章構成をとらえ、筆者の主張がどこにどのように書かれているのかを考え、アップとルーズについて伝えたいのではなく、選んだり、組み合わせたりすることが大事だということを読み取る。	○		○	・本文の構造を捉え、筆者の主張がどこに書かれているのか気づくことができる。 (記述・発言)【知】
		・四段落と五段落の役割について考える。	○	○	○	・対比を用いた筆者の説明の工夫をつかむことができる。 (記述・発言)【態】
		・七段落について考える。【本時】		○	○	・「アップとルーズで伝える」の七段落について、自分の考えを書くことができる。 (記述・発言)【思・判・表】【態】
		・筆者が「初め」と「終わり」の2回、(双括型で)主張を書いている工夫について考える。		○	○	・双括型で書かれている工夫について考える。 (記述)【思・判・表】
3	2	・「すがたをかえる大豆」を双括型の文章にして書く。	◎	◎	◎	・「すがたをかえる大豆」の主張を捉えながら、双括型の文章で、2つの事例を用いて書くことができる。 (記述)【知】【態】 【思・判・表】
		・書いた文章を交流する。		○	○	・自分の考えを交流し、考えを広げることが

						できる。 【態】【思・判・表】
--	--	--	--	--	--	--------------------

10. 本時の展開（第8時/全11時間）

（1）本時の目標

「アップとルーズで伝える」の七段落にはどんなことが書かれているのかを考える。

（2）本時の評価規準

「アップとルーズで伝える」の七段落にはどんなことが書かれているのかを考えようとしている。

（3）本時の授業展開

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
1. 前時の復習をする。		
2. 本時のめあてを確認する。		
七段落について考えよう。		
3. 七段落は何についての事例なのかを確認し、七段落は必要なのかを考える。	●必要、必要ではないかという意見を、叙述をもとに理由をつけて書かせる。 ●個人で考え、全体で交流する。	
4. 筆者が七段落を本文に入れたことについて考え、本時をふりかえり、次時につなげる。	●筆者が七段落を書いたことについて考えさせる。 ●友だちの意見を聞いて共感したり考えが変わったりしたことも含めてまとめる。	・七段落について、自分の考えを書こうとしている。（記述） 【思・判・表】【態】

（4）本時における具体的な児童の状況（※本時の評価規準に関わる場面において）

おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況（C）への支援
・七段落の事例について考え、自分の考えをノートに書くことができている。	・七段落の事例についての考えを聞き、納得した意見を選択できるようにする。